

☾ 三重大学教育学部附属中学校

2024年度 プレ公開Ⅰ（公開授業研究会）

研究概要について 11月11日（月） 13:15～13:30

研究概要

- 1 研究主題と 研究の柱
- 2 各教科における「探究」について

1

研究主題 と 研究の柱

研究主題

探究活動を中心としたカリキュラムを通して、
生活や社会をきりひらく生徒の育成

研究副題

ー 生徒一人一人のウェルビーイングを目指して ー

1

研究主題 と 研究の柱

研究の柱

- (1) 学校教育目標達成のためのカリキュラム・マネジメント
- (2) 発達段階に応じた探究活動（総合的な学習の時間）のデザイン
- (3) 一人一人のウェルビーイングの実現

1

研究主題 と 研究の柱

(1) 学校教育目標達成のための カリキュラム・マネジメント

①探究活動を中心として

激しい時代の変化、予測困難な時代となっている今、

- ・ 社会にある様々な問題に目を向け自ら問いを立てて他者と協働しながら解決を図ること
- ・ 多くの情報の中から必要な情報を見極め、それらを正しく理解し情報を再構成し新たな価値を見出すこと
- ・ 多様で複雑に変化していく社会において目的を再構築できるようになることが求められている。

1

研究主題 と 研究の柱

(1) 学校教育目標達成のための カリキュラム・マネジメント

そのためには.....

「探究的な学習」 が不可欠ではないかと考えた



「探究」がキーとなる

「探究的な見方・考え方を働かせ、……」 (文科省、2022)

「探究的な学習の過程を一層重視し」 (文科省、2017)

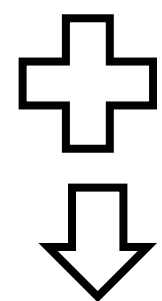
1

研究主題 と 研究の柱

(1) 学校教育目標達成のための カリキュラム・マネジメント

豊かな創造性とたくましい実践力をもち、
生活をきりひらく生徒の育成

豊かな創造性



たくましい実践力

生活をきりひらく

「探究的な学習」で
実現をめざす!

校内研究会において、教員全員で学校教育目標の捉えなおしを行った。その中で、学校教育目標を「豊かな創造性」「たくましい実践力」「生活をきりひらく」の3つで捉え、それらをどう解釈するか、どのような姿であるかを議論し合った。

表 1 学校教育目標の捉え直し

	豊かな創造性	たくましい実践力	生活をきりひらく
解釈	● 学んだ知識・技能を使って、生活や社会の問題発見・課題解決をし、一人一人のウェルビーイングの実現のために新しい価値を創造することができる。	● 失敗を恐れず、試行錯誤しながら、粘り強く目標達成と自己実現に向けて繰り返し努力し続けることができる。	● 日常生活や社会の中で自分らしく生きるために、ときに他者と協力しながら問題発見・課題解決をしたり、真理の追究をしたりすることができる。
生徒の姿	● 学んだ知識・技能を使って問題解決を図る ● 学んだ知識・技能を組み合わせる ● できる・できないにかかわらずアイデアを出してみる ● 問題や課題を解決していくためのアイデアを出すことができる。→実行する	● 実践する ● 諦めない ● 努力できる ● 計画的に取り組める ● 自分の位置を知っている（メタ認知） ● 挑戦できる ● 自ら行動する（主体的）	● 前向きに生きる ● 意欲的に行動する ● 他者と協力する ● 新しいアイデアを生み出す ● ゼロからイチを生み出す ● 良好な人間関係を築こうとする ● 他の人とうまくやっていく（協働） ● 自ら行動できる（主体的） ● 社会の中で、自分を生かそうとする

1

研究主題 と 研究の柱

(2) 発達段階に応じた

探究活動（総合的な学習の時間）のデザイン

①総合的な学習の時間における探究的な活動について

2008年改訂学習指導要領 目標

(1)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

(2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

2022年度からは、高等学校で「総合的な探究の時間」がスタートし、探究的な学習の重要性が増している。

附属中の探究的な学習の取組を事例の一つとして、他の学校に示していきたい！

1

研究主題 と 研究の柱

(2) 発達段階に応じた

探究活動（総合的な学習の時間）のデザイン

②前次研究の課題より

設定した「資質・能力」において、自ら問題を見出し（問題発見）、それらを探究していくときに協働的に活動していくこと（協働）に課題が見られた。

●「問題発見」における課題

→テーマが身近なものになっていないために、取り組みに対して主体性が発揮されていなかった。そのため、研究がなかなか深まっていけないという実態があった。

●「協働」における課題

→他者と協働していくには対話が必要となる。取り組む中で、生徒たちが研究を深めるための対話がどれだけでできていたかには疑問が残る。また、教師がどのように生徒をファシリテートしていくかが課題であった。

1

研究主題 と 研究の柱

(2) 発達段階に応じた

探究活動（総合的な学習の時間）のデザイン

②前次研究の課題より

課題への手立て

三重大大学教育学部の先生方の協力のもと、「『**研究**』とは何か」「**問いの立て方**」についての動画を作成していただいたり、実際に生徒たちに講義を行ったりしていただいた。

教師が研究を深めるための対話をしていくために、NPO法人や企業でファシリテーターを務める丸毛幸太郎さんをお招きし、校内において**ファシリテート研修会**を実施した。

以上、2つのことを前年度の3学期に実施し、今年度を迎えた。



Q. 研究ってどうやって始めたらいいの？

(8分55秒)

研究とは？

物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理などを明らかにすること。また、その内容。

ある特定の物事について、人間の知識を集めて考察し、実験、観察、調査などを通して調べて、その物事についての事実あるいは真理を追求する一連の過程のことである。

研究とは、知りたいことや解決したい問題に対して、証拠やデータを基にして深く掘り下げて理解や答えを求める過程です。

研究対象物事

研究方法調べる方法

調べた結果データ

答え考察

人文学	歴史学、文学、芸術 など
社会科学	法学、政治学、経済学、社会学、教育学、心理学 など
数物系科学	数学、物理学、天文学 など
化学	物化学、有機化学 など
工学系科学	材料学、電気電子学、土木工学 など
情報学	情報科学、情報工学、人間情報学 など
生物系科学	分子・細胞・個体・神経科学 など
農学・環境学	農林化学、獣医学、畜産学 など
医学・歯医学	薬学、感染・免疫学、内科学 など

みなさんの興味のある、将来就きたい職業と関連のある研究分野は？

文部科学省HPより

2-0 どのように「問い」を立てるか

(5分43秒)

問いの立て方

研究では、なぜ「問い」「仮説」が重要？

問い、仮説の重要性とは？

探求の出発点
「問い」は研究を始める最初のステップ。私たちが何についてもっと知りたいか、何が疑問なのかを表すもの。

探求を焦点化
「問い」を設定することで、研究の焦点が絞られ、何に注目すべきかが明確化。これにより、効率的かつ有意義な研究を進めることができる。

結論へ道
研究の最終的な目標は、提起された「問い」に対する答えを見つけることです。「仮説」はその答えにたどり着くための仮定です。

よい「問い」よい「仮説」って？



作成目的 研究テーマを作成するため（サンプルとして）		日付 年 月 日
問い（テーマ） 裸足で走ることは疾走速度を低下させるか		
仮説 速く走るためには、ピッチが速く、ストライドが大きいことが必要であることから、裸足の場合、滑りやすく、十分に地面を蹴れないためストライドが小さくなり、疾走速度が低下するのではないかと		
疑問（不明確なもの） 速く走るための走り方はどうなっているか なぜ、速く走る人はリズムがいいのか なぜ、速く走ろうとする人は靴を脱ぐのか 靴の種類によって走り方に影響があるのか 速く走れる靴はあるのか		わかっていること 速く走る人は・・・ ストライドが大きい ピッチが早い 膝の上下動が少ない 裸足や靴について・・・ 裸足は滑りやすい 靴は足を守る 重い靴や足のサイズより大きい靴は走りにくい
興味・関心（身近なものから） 走ること、短距離走、パフォーマンス向上、健康、歩行との違い、速く走りたい、トレーニングなど		

1

研究主題 と 研究の柱

(2) 発達段階に応じた

探究活動（総合的な学習の時間）のデザイン

③今年度の取組

「総合的な学習の時間」での「豊かな創造性」
「たくましい実践力」とはどのようなものか、
「生活をきりひらく」とはどのような生徒かを考
え議論を行った。

	豊かな創造性	たくましい実践力
1年生	- 問題解決のための知識・技能を身につけ、物事を多角的な視点で考えることができる。 - 自分の興味・関心は何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。 - 身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができる。 - 問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。	- 自分の強みと弱みをわかっている。 - 目標設定をし、達成に向けての計画を立てて取り組むことができる。 - できる・できないにかかわらず、行動に移すことができる。 - 上手いかなかったときに、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。
2年生	- 問題解決のための知識・技能を身につけ、解決に向けて多角的に柔軟性をもって対応していくことができる。 - 問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。 - 自分の興味・関心は何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。 - 身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができ、解決（解明）する問いにしていけることができる。 - 自身のウェルビーイングを実現するためには、何が必要かについて考えることができる。	- 自分の強みと弱みをわかったうえで、足りないものが何かを考え、強みに変えていく努力ができる。 - 目標設定をし、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤しながら目標達成に向けて取り組むことができる。 - 課題解決、自己実現に向けて行動に移すことができる。 - 上手いかなかったときに、どうすれば上手くいくかを考えることができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。
3年生	- 問題解決のために、身につけた知識・技能を必要に応じて取捨選択し、「生きて働く知識・技能」として使うことができる。また広い視野を持ち、新たな視点や多角的な視点で問題解決のためのアイデアを出すことができる。 - 自分の興味・関心から、探究・追究していくための問いを立てることができる。 - 身の回りや社会、世の中にある事象に対して、疑問をもつことができ、解決（解明）する問いにしていけることができる。 - 確かな情報を集めることができる。そして、そこから自身の考えを構築できる。 - 自身のウェルビーイングを明確にし、実現のために自分でできることを考え、行動に移すことができる。	- 自分を分析し、強み弱みを理解したうえで、さらに自己を高めるために必要な方法を見出し努力することができる。 - 目標を設定したうえで筋道を立てて論理的に考え、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤を繰り返しながら、目標達成に向けて取り組むことができる。 - 課題解決や自己実現に向けて、前向きに取り組んだり、行動に移したりすることができる。 - 上手いかなかったときに、改善点を見出すことができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。課題の解決や、自分と他者、社会のウェルビーイングの実現に向けて、諦めずに努力し続けることができる。

生活をきりひらく

- 自分の身の回りや社会にある問題に対して問題意識を持ち、解決に向けて行動したり、未だ解明されていないことに対してとことん追究したりすることができる。
- 社会を構成する一人であるとの自覚を持ち、当事者意識をもって行動することができる。
- ウェルビーイングの実現に向けて、どうすれば実現可能かを考え、前向きに取り組もうとする。
- 何か問題が生じたときに、解決に向けて、自ら行動を起こすことができる。
- 自ら問題を発見し、その解決に向けて行動することができる。
- 積極的に社会の中で活躍しようとして、自分の良さを生かしたりしようとしている。
- 広い視野で物事を捉え、ときに他者と協力しながら自身のウェルビーイングと他者のウェルビーイング、さらには社会のウェルビーイングの実現のために、行動を起こすことができる。

「総合的な学習の時間」の目標

	豊かな創造性	たくましい実践力
1年生	- 問題解決のための知識・技能を身につけ、物事を多角的な視点で考えることができる。 - 自分の興味・関心が何なのかを見つけることができる。探究・追究していくための問いを立てることができる。 - 身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができる。 - 問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。	- 自分の強みと弱みをわかっている。 - 目標設定をし、達成に向けての計画を立てて取り組むことができる。 - できる・できないにかかわらず、行動に移すことができる。 - 上手くいかなかったときに、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。
2年生	- 問題解決のための知識・技能を身につけ、解決に向けて多角的に柔軟性をもって対応していくことができる。 - 問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。 - 自分の興味・関心が何なのかを見つけることができる。探究・追究していくための問いを立てることができる。 - 身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができ、解決（解明）する問いにしていけることができる。 - 自身のウェルビーイングを実現するためには、何が必要かについて考えることができる。	- 自分の強みと弱みをわかったうえで、足りないものが何かを考え、強みに変えていく努力ができる。 - 目標設定をし、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤しながら目標達成に向けて取り組むことができる。 - 課題解決、自己実現に向けて行動に移すことができる。 - 上手くいかなかったときに、どうすれば上手くいくかを考えることができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。
3年生	- 問題解決のために、身につけた知識・技能を必要に応じて取捨選択し、「生きて働く知識・技能」として使うことができる。また広い視野を持ち、新たな視点や多角的な視点で問題解決のためのアイデアを出すことができる。 - 自分の興味・関心から、探究・追究していくための問いを立てることができる。 - 身の回りや社会、世の中にある事象に対して、疑問をもつことができ、解決（解明）する問いにしていけることができる。 - 確かな情報を集めることができる。そして、そこから自身の考えを構築できる。 - 自身のウェルビーイングを明確にし、実現のために自分にできることを考え、行動に移すことができる。	- 自分を分析し、強み弱みを理解したうえで、さらに自己を高めるために必要な方法を見出し努力することができる。 - 目標を設定したうえで筋道を立てて論理的に考え、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤を繰り返しながら、目標達成に向けて取り組むことができる。 - 課題解決や自己実現に向けて、前向きに取り組んだり、行動に移したりすることができる。 - 上手くいかなかったときに、改善点を見出すことができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。課題の解決や、自分と他者、社会のウェルビーイングの実現に向けて、諦めずに努力し続けることができる。



生活をきりひらく
- 自分の身の回りや社会にある問題に対して問題意識を持ち、解決に向けて行動したり、未だ解明されていないことに対してとことん追究したりすることができる。 - 社会を構成する一人であるとの自覚を持ち、当事者意識をもって行動することができる。 - ウェルビーイングの実現に向けて、どうすれば実現可能かを考え、前向きに取り組もうとする。 - 何か問題が生じたときに、解決に向けて、自ら行動を起こすことができる。 - 自ら問題を発見し、その解決に向けて行動することができる。 - 積極的に社会の中で活躍しようとしたり、自分の良さを生かしたりしようとしている。 - 広い視野で物事を捉え、考え、ときに他者と協力しながら自身のウェルビーイングと他者のウェルビーイング、さらには社会のウェルビーイングの実現のために、行動を起こすことができる。

1

研究主題 と 研究の柱

(2) 発達段階に応じた

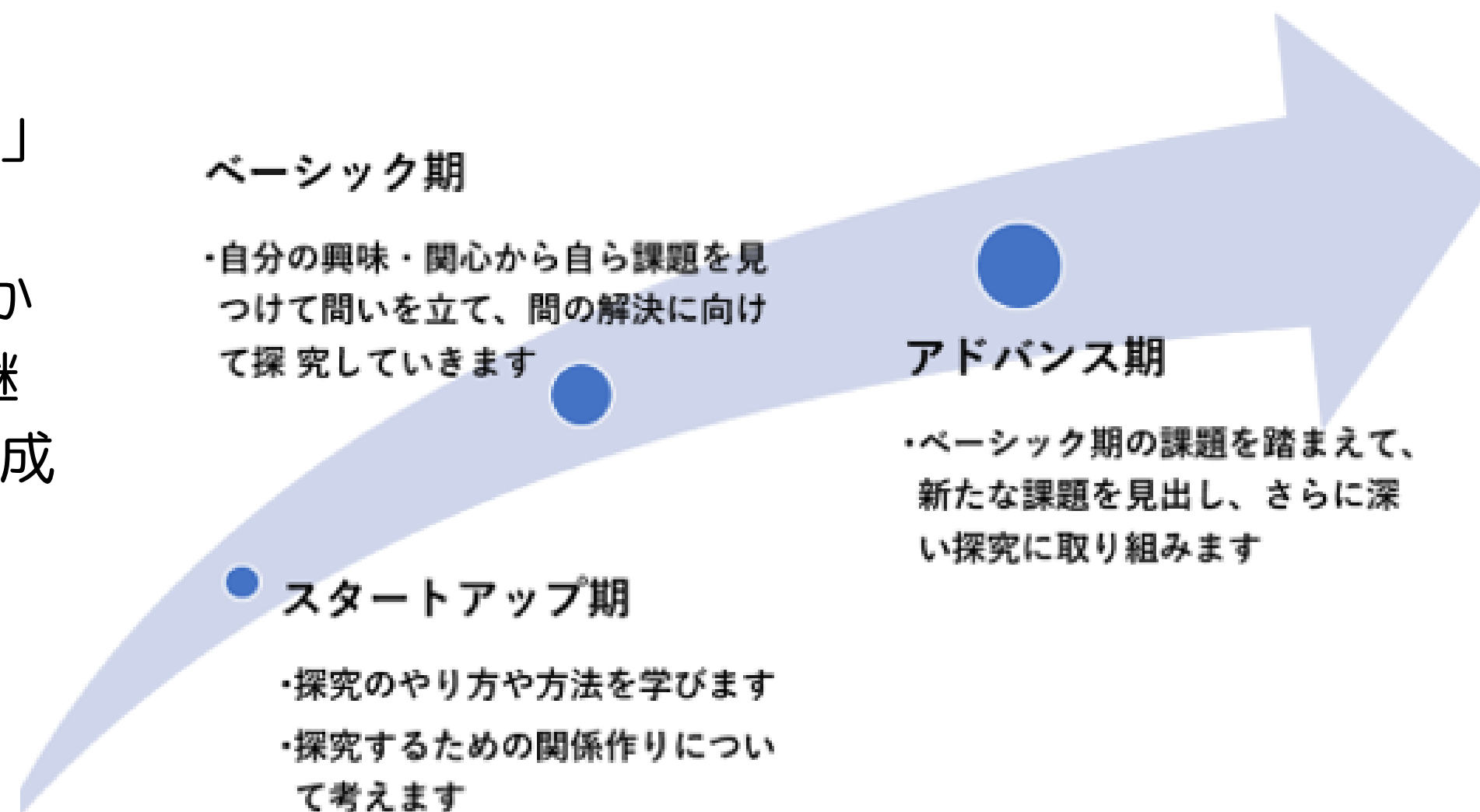
探究活動（総合的な学習の時間）のデザイン

③ 今年度の取組

3年間を見通して、「総合的な学習の時間」に取り組むこととした。

1年ごとの断続的な取組ではなく、1年生から段階的に学習を進め、3年間を通して継続的に活動を行うようにし、3年間での完成を目指した。

1年生	スタートアップ期
2年生	ベーシック期
3年生	アドバンス期



1

研究主題 と 研究の柱

(2) 発達段階に応じた

探究活動（総合的な学習の時間）のデザイン

③今年度の取組

年間指導計画を作成し、学校全体で「総合的な学習の時間」に取り組んでいけるようにした。
指導計画は作成しているが、生徒のようすから必要に応じて話し合いを持ちながら進めている。

	4月	5月	6月	7月	8月・夏休み	9月
1年生	エンカウンター （仲間づくり）		教員による ラボの実施	研究に向けて 説明	はじめての 探究準備 教科自由研究	自由研究の発表
2年生	エンカウンター （仲間づくり） 個人研究 スタート	研究を進める	研究を進める	研究を進める	研究を進める	研究報告会 （中間発表） これまでの研究 をまとめて報告
3年生		研究を進める 修学旅行 （平和）		今後の予定の確認		

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	研究の手法 講座（映像） 最終発表見学（10月末）		校外学習 （町探検）	校外学習 まとめ	研究の問い立て （次年度に向けて）	
2年生	最終発表	振り返り レポート作成		研究の問い立て （次年度に向けて）	校外学習 （防災・平和）	研究の問い立て （次年度に向けて）
3年生						

3年間の「総合的な学習の時間の計画

	4月	5月	6月	7月	8月・夏休み	9月
1年生	エンカウンター (仲間づくり)		教員による ラボの実施	研究に向けて 説明	はじめての 探究準備 教科自由研究	自由研究の発表
2年生	エンカウンター (仲間づくり)	研究を進める	研究を進める	研究を進める	研究を進める	研究報告会 (中間発表) これまでの研究 をまとめて報告
3年生		個人研究 スタート 研究を進める ----- 修学旅行 (平和)		今後の予定の確認		

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	研究の手法 講座(映像) 最終発表見学(10月末)		校外学習 (町探検)	校外学習 まとめ	研究の問い立て (次年度に向けて)	
2年生	最終発表	振り返り レポート作成		研究の問い立て (次年度に向けて)	校外学習 (防災・平和)	研究の問い立て (次年度に向けて)
3年生						

1

研究主題 と 研究の柱

(3) 一人一人のウェルビーイングの実現

なぜ「ウェルビーイング」なのか

OECDは「経済的成長」だけでなく、「究極的に人々が心身共に幸せな状態（ウェルビーイング）」を作り出すことに移行している。

これから生きていく子どもたち。

学校教育によって、生徒たちのウェルビーイングの実現に近づけられないか。

探究的な学習（総合的な活動の時間及び各教科の授業で）によって学校での学びと自身の生活や社会とをつなげることができれば、生徒たちのウェルビーイングに近づくことができるのではないか。

1

研究主題 と 研究の柱

(3) 一人一人のウェルビーイングの実現

本校では、自分の興味から活動を進めることで、今の充実感、自己肯定感を得ていく。ここで得た力を、これからの将来、地域、未来の自分、社会につなげていくことができれば、生徒一人一人のウェルビーイングの実現も可能なのではないかと考えた。



社会とのつながりや接点をいかに持たせていくか、どのような課題を提示するかが重要

しかしながら、生徒一人一人がウェルビーイングを達成したかどうかを評価していくのは非常に難しい。アンケートを実施していただくだけでなく、成果を見とっていくことが今後は必要となる。

2

各教科における「探究」について

各教科での議論

①各教科における、「豊かな創造性」「たくましい実践力」「生活をきりひらく」

学校教育目標の「豊かな創造性」「たくましい実践力」が教科においてどのような資質・能力と言えるのか、「生活をきりひらく」とはということなのかについて、教科特性も踏まえたうえでどのようなことができるのか、各教科で検討を行った。



各教科には教科の特性を踏まえた学習内容があるため、総合的な学習の時間のように迫ることは必ずしも目指されているものではないだろう。学校教育目標と各教科の目標の接点を探るために、議論を続けていく必要がある。

2

各教科における「探究」について

各教科での議論

②各教科における「探究」について

- ・何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）
- ・理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成）

現代社会の諸問題に迫る学習課題（真正な学び）

指導計画・実践・検討



「どのように社会・世界と関わり、よりよい生活を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

→ **「生活をきりひらく」生徒を育成することにつながり、総合的な学習の時間のよりよい学びに接続できると考えている。**